

- こと。
- 患者ドレーンチューブに接続したコネクタ付接続管や吸引接続回路は、引っ張ったり折り曲げたりせず、折れ曲がりやキック、ねじれがないようにすること。
 - コネクタ付接続管等の吸引接続回路の接続部は、患者の体位変更等ではずれないようにチューブや接続部をテープ等でしっかり固定すること。
 - 患者からの排液に含まれる粘性物質が本品吸引回路の陽圧防止弁に付着し本来の機能が果たせない場合があるのでコネクタ付接続管をクランプし、リークの有無をチェックすること。リークがある場合は使用せず弊社へ連絡してください。
 - アクアシールバッグには排液バッグ外へのオーバーフローを簡易的に防止するボール弁が付いていますが、本品の性能を維持するために血液や体液及び泡沫が排液バッグの所定の容量を越える前に他の新しいバッグに交換すること。また、Dバッグには同様のボール弁が付いていないので注意すること。
 - 長時間使用すると蒸留水が蒸発し、水量が減少することがあるので、定期的に蒸留水の状態を確認し、水量が減少している時は、追加すること。*
 - 本品からアクアシールバッグを切り離す場合は、必ず逆流防止弁(別売)をバッグの吸引ポート(青)に装着して使用すること。*
 - 本品を使用中は、患者の状態や本品の動作状態に異常がないことを確認すること。
 - 使用しない時でも、定期的にバッテリー充電をすること。
[長期間放置すると充電できなくなることがある]
取扱説明書 バッテリー運転機能 バッテリー充電についてを参照。
 - 排液バッグ及びコネクタ付接続管は、使用後は安全な方法で処分すること。*
 - 本品を移動して使用する場合
 - 各スイッチに触れないように装置の設置、固定方法に注意すること。(ロック機能の使用を推奨します)
 - 本品及び排液バッグ等は、直立させて使用すること。
 - あらかじめ移動時間や他の問題点(移動ルートのスペース等)を確認しておくこと。*

<メラロバッグとの併用に関する注意>

- メラロバッグは、排液槽とウォーターシール部が兼用になっているので、使用中に排液量が増加し、排液槽内の水位が上昇するに従って、実際に患者にかかる吸引圧が下がる。常に排液量を確認するとともに設定吸引圧の設定を変えるなどの処置を行うこと。
吸引圧の読み方は、本品の取扱説明書 吸引ラインの接続を参照。
- メラロバッグは排液槽とウォーターシール部が同一の為、胸腔内圧の変動によって排液が胸腔内に逆流しないよう注意すること。特に低床ベットサイドでの使用やカートに乗せての使用で患者ドレーンチューブの挿入位置とバッグの液面の高さが十分に取れない場合は排液槽とウォーターシール部が別になったメラアクアシールを使用すること。また、排液が所定の容量に達しない場合でも逆流の恐れがあるときは新しいメラロバッグかもしくはメラアクアシールに交換すること。

<併用ドレーンチューブの径の違いによる圧損とリーク警報について>*

ドレーンチューブの径、長さ、側孔数等によりそれぞれの圧力抵抗は変化しますので、必ず事前に使用するドレーンチューブ自体の圧力損失を確認し吸引圧を設定すること。
下記実験データを参考とすること。

ドレーンチューブ	圧損 (cmH ₂ O)	警報発生圧 (設定圧)
8 Fr	12.0	-33 cmH ₂ O以上
10 Fr	4.8	-20 cmH ₂ O以上
12 Fr	1.8	-13 cmH ₂ O以上
14 Fr	0.9	-11 cmH ₂ O以上
18 Fr	0.0	-10 cmH ₂ O以上

注) この表の設定圧は臨床上の適切な圧力設定を示すものではありません。

実験条件: 空気流量2.7 L/minにて測定した。 **

<併用ドレーンチューブの径の違いによる流量の変化について>

- ドレーンチューブの径により流量が変化する。下記実験データの圧設定を参考とすること。

設定圧と各ドレーンチューブでの流量 (L/min)

設定圧	8 Fr	10 Fr	14 Fr	18 Fr
2	0.00	0.00	0.00	0.00
3	0.00	0.00	0.00	0.00
6	0.75	1.00	1.25	1.25
8	1.00	1.35	1.75	1.85
10	1.30	1.80	2.40	2.50
20	2.35	2.65	2.70	2.70
30	2.35	2.65	2.70	2.70
50	2.35	2.65	2.70	2.70

実験条件: 流量測定は、アクアシールD2、1.5mの接続管チューブ(内径φ8mm)、ドレーンチューブ、ガラス管流量計を接続した回路で行った。
(ドレーンチューブの末端は、大気開放)

- 新生児、小児に細径ドレーンチューブを使用すると、流量が低下する。 実験上、次のような流量が得られる。

ドレーンチューブ径	流量(L/min)
10 Fr	1.8
18 Fr	2.5

(設定吸引圧: -10 cmH₂O)

- 設定圧により流量が変化する。特に、アクアシールD2バッグ併用時には、設定圧が-3 cmH₂O以下での流量は、条件により0 L/minになり、吸引できない場合がある。*
注) 水封水の抵抗(2 cmH₂O)、ドレーンチューブ、管路抵抗等による。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

- 保管環境
 - 周囲温度: 5~35℃
関連注意) 40℃を超える環境にて保管した場合、内蔵バッテリーの自己放電が著しくなる。[劣化]
 - 相対湿度: 20~80%RH
 - 気圧: 70~106 kPa
 - 水のかからない場所に保管すること。
 - 気圧・温度・湿度・風通し・日光・ほこり・塩分・イオウ分等を含んだ空気等により悪影響の生ずる恐れのないこと。
 - 傾斜・振動・衝撃等(運搬時を含む)から影響を受けないこと。
 - 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所は避けること。
- 保管方法
 - 保管中、毎週1回程度の充電をすること。充電方法は、【保守・点検に係る事項】4. バッテリー充電を参照のこと。
[充電を行わずに放置した場合、バッテリーの劣化により容量減少や再充電不能になる場合がある]

【保守・点検に係る事項】

- 吸引回路の洗浄消毒
汚染・感染防止のため、1人の患者への使用後毎に、本品の吸引回路を下記方法で洗浄消毒する。または本章2. 吸引回路の洗浄消毒の方法で除菌する。

- 関連注意
- 他の方法による消毒はしないこと。[本品が故障]
 - 器械側接続チューブ(ブルーチューブ)が目視確認で汚れていた場合は、新しいチューブに交換すること。
 - ドレンタンクに排液が貯留している場合は、あらかじめ排液を廃棄しておくこと。
 - 洗浄消毒の作業時は、必ず、手袋・マスク・ゴーグル・袖付ガウンを着用すること。[作業保護]

- 使用器具・薬剤等
 - ① シリンジ(カテーテル用、容量: 50 mL)
 - ② 注入用中継チューブ(内径φ10mm、長さ: 10 cm)